

工事説明書

コンビネーションレンジ

型式名 GMO-S3800

M・V対応型

出荷高さ 630mm用

■工事される方へのお願い……………この「工事説明書」を設置工事前に必ずお読みください。

◎設置工事が終わりましたら(設置工事後の点検確認)のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。

設置工事後の点検確認 不備があると、感電・火災・ガス漏れなど思いがけない事故の原因になります。

●チェックリスト

点検項目	点検内容	参照ページ	チェック
機器及びその周辺	ガス種・電源	銘板は使用するガス種・電源と適合していますか。	2
	同こん部品	正しく取り付けられていますか。また不足はありませんか。	3
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離・火災予防の措置は十分ですか。	2
	設置条件	障害物等との離隔距離は十分ですか。	2・3
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか。	2
	水平設置	水平に設置されていますか。	3
	安定設置	強固に設置され、ガタツキはありませんか。	3
	機器高さ	高さの微調整によるコンロとのスキ間は適切ですか。	4～6
	給排気	十分給排気できる場所に設置されていますか。	2
ガス配管・電気工事	接続は正しく施工され、ガス漏れ等がありませんか。	7～12	
ラベル貼付	接続具の施工者ラベルおよび連絡先のステッカーを貼付しましたか。	7	
その他	オープン庫内に付属品が残っていませんか。		

試運転



1. 取扱説明書の「使いかた」に基づいて試運転を行ってください。
2. 試運転終了後及び長期間使用しないときはガス栓を閉じてください。また専用ブレーカーの場合はブレーカーを切ってください。※ブレーカーを切る場合は本機器専用ブレーカーであることを確認してください。

お客様への取扱説明

1. 取扱説明書によって、機器の取扱いを説明してください。
2. 試運転終了後、保証書(取扱説明書に記載)に必要な事項を記入のうえ、この「工事説明書」とともに、お客様に渡していただき、保管のお願いをしてください。

安全に正しく使用していただくために

- ここに示した注意事項は機器を正しく安全に設置工事していただき、設置工事業者及び機器を使用されるお客様や他の人々への危険や、財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
- 誤った工事により生じる危害・損害の程度をつぎのように区分しています。

 警告	作業を誤った場合に設置工事業者または、設置後の製品の不具合によって、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	作業を誤った場合に設置工事業者または、設置後の製品の不具合によって、使用者が傷害を負う可能性または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

4. 機器の準備

設置前の注意

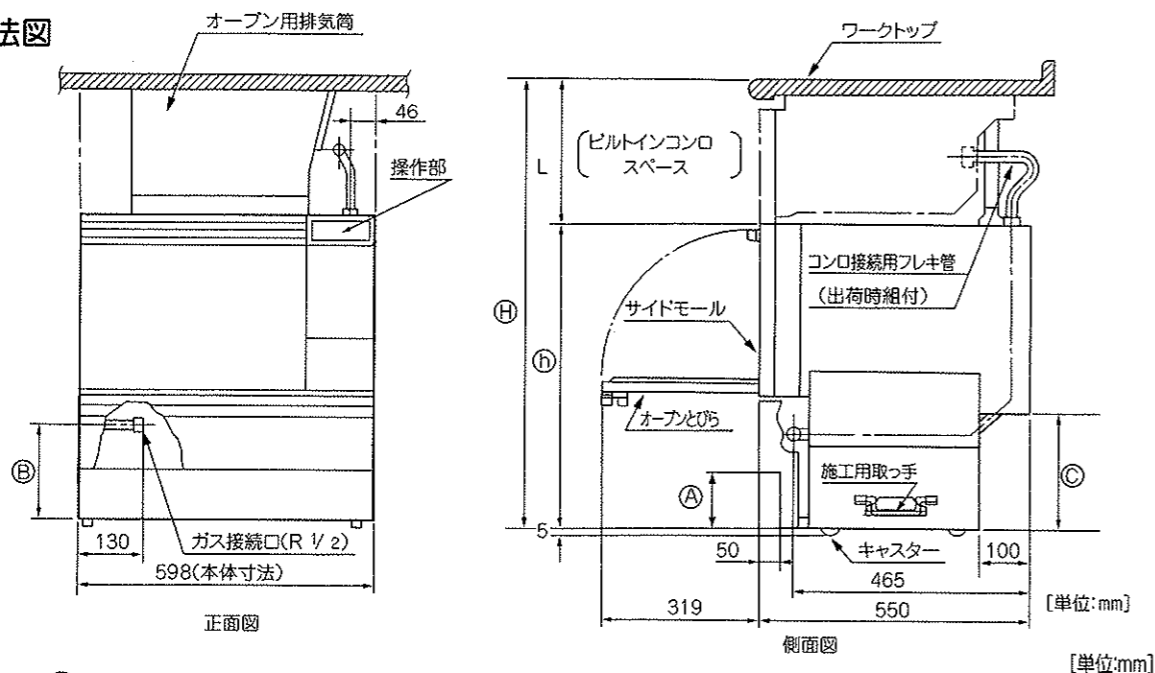
■ビルトインコンロの確認

- 本機器と組み合わせて使用するビルトインコンロのタイプ(品番)を確認してください。

注意

設置する機器が使用するガスの種類に適合していることを銘板(ガス銘板)で確認してください。

■設置寸法図



- 機器高さ(H寸法)は580~640mmの範囲で7段階に調節できます。この場合のA・B・Cの各寸法は右表の通りです。

ワークトップ高さ(H)	860	850	840	830	820	810	800
機器高さ(H)	640	630	620	610	600	590	580
ケコミ高さ(A)	110	100	90	80	70	60	50
配管高さ(B)	203	193	183	173	163	153	143
後部スペース(C)	252	242	232	222	212	202	192

※機器高さ(H)はキャスターの高さ寸法5mm含まず

機器の準備

注意

設置作業にあたっては、ケガなどしないよう手袋や作業服を正しく着用してください。
 機器の移動は施工用取っ手を持って移動してください。

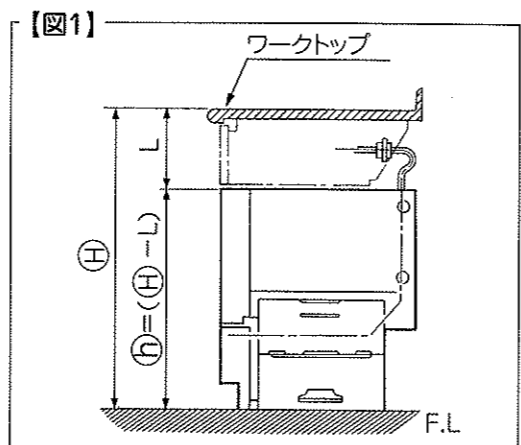
1. 機器高さ(H)の確認

■ワークトップ高さの確認

- ワークトップ高さ(H)とビルトインコンロ高さ(L)を確認してください。
- 機器高さ(H)を(H-L)になるように10mm単位で調節してください。

【図1】

ワークトップ高さ(H)	860	850	840	830	820	810	800
機器高さ(H)	640	630	620	610	600	590	580



4. 機器の準備

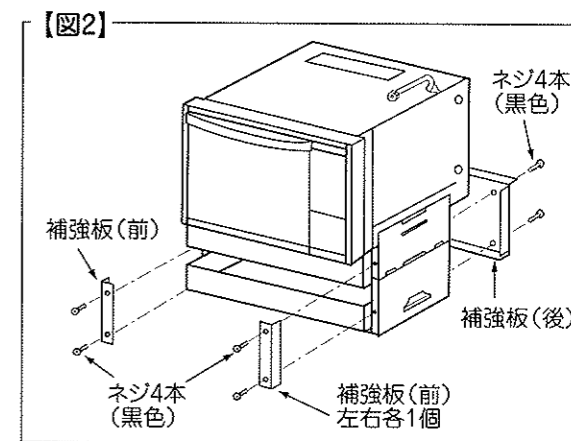
2. 補強板を取り外す

■補強板(後)の取り外し

- 機器後面4本(黒色)のネジで固定している補強板(後)を取り外してください。
- ※補強板(後)は輸送時の補強部品で設置後は不要です。

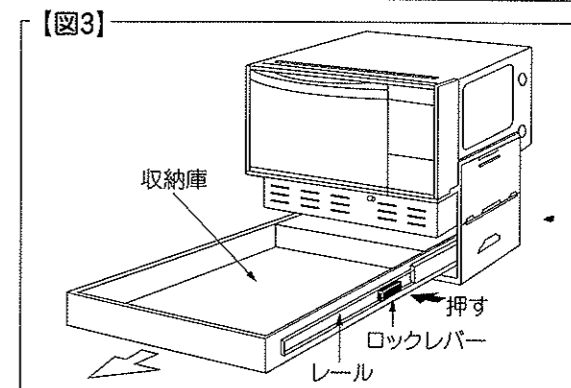
■ワークトップ高さ850mm以外の場合

- 機器前面左右各2本(黒色)で固定している補強板(前)を取り外してください。
- 取り外したネジ(2本)は「5.機器高さ(H)の調節」で使用しますので保管してください。



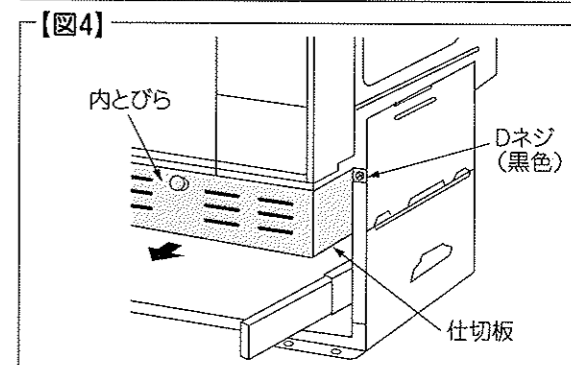
3. 収納庫を取り外す

- 収納庫を全開まで引き出して、レール(左右)のロックレバーを同時に押した状態で収納庫を前に引いてレールから取り外してください。



4. 仕切板を取り外す

- ガス接続作業をやすくするため、Dネジ(左右各1本、黒色)を取り外し、収納庫上部の仕切板を手前に引いて取り外してください。
- 取り外したネジ(2本)は「6.仕切板を取り付ける」で使用しますので保管してください。



5. 機器高さ(H)の調節

- ワークトップ高さ(H)850mm以外の場合は機器の高さ(H)を変更してください。

注意

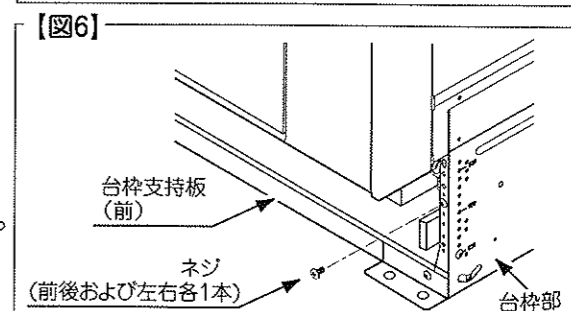
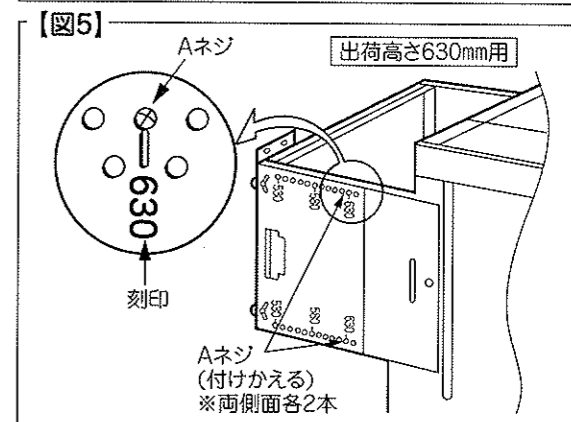
機器を倒したり、立てたり、移動したりする場合、床面等に傷をつけないように注意してください。(養生シートや古毛布などを使用してください。)

- 機器をうしろ向きに倒して、Aネジ4本(黒色、両側面・各2本)を調節したい位置に付けかえて固定してください。

- 台枠部の刻印は、機器高さ(H)寸法を表示しています。

- 2.補強板を取り外す で取り外したネジ(2本)は機器前面および後面の穴の合った所で固定してください。

- 機器を正常な向きにもどしてください。



4. 機器の準備

6. 排気筒(下)固定位置の確認または、調節

※本機器は、排気筒(下)の固定位置を変えることによって設置寸法を変えることができます。

※本機器仕様で上部ビルトインコンロタイプ、またはワークトップ穴開け寸法に合わない場合は、排気筒(下)の固定位置を変えて設置してください。

※コンロ部のタイプ及び設置寸法については、ビルトインコンロ側の工事説明書をご覧ください。

[固定位置の確認]

コンロ部のタイプ	ワークトップ穴開け寸法	排気筒(下)固定位置(刻印)
設置フリータイプ	A+37~(A+45)~A+59	V(37) (45)
Vタイプ	A+37	M(59)
Mタイプ	A+59	

※出荷時はVの位置に取り付けてあります。

[固定位置の変更]

- 排気筒(下)固定ビスを少しゆるめてください。
(左右、2本) **【図7】**
- 排気筒(下)を上記の刻印の位置に突起部を合わせてください。
【図7】
- 固定ビスを再度締めて排気筒(下)を固定してください。

[ご注意]

固定位置は、上記のどちらかの位置にしてください。
途中の位置では固定しないでください。

7. 電源コード・アース線の取り出し

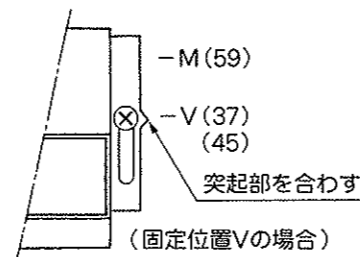
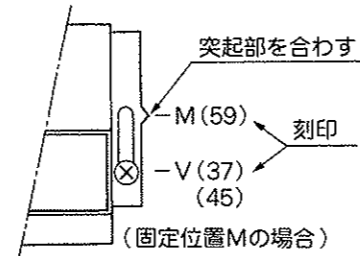
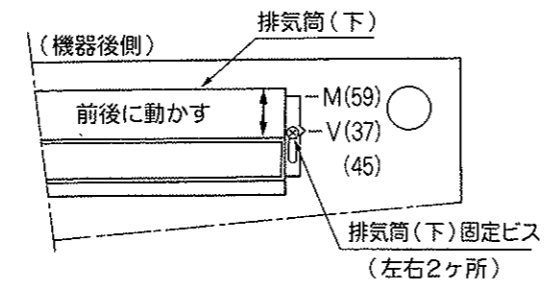
- 電源コードは後方より取り出してください。
- アース線は台枠支持板(後)にアースビスで本体に固定していますので後方へ取り出してください。

【図8】

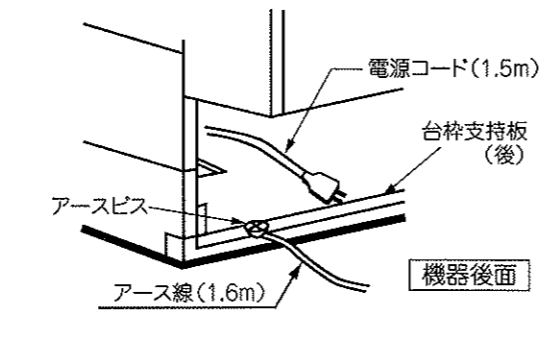
[ご注意]

- 電源コード・アース線が収納庫にかみ込まないよう機器の後方に取り出してください。
- アース線は台枠支持板(前)には固定しないでください。

【図7】



【図8】



5. ガス配管・電気工事

■ ガス配管工事

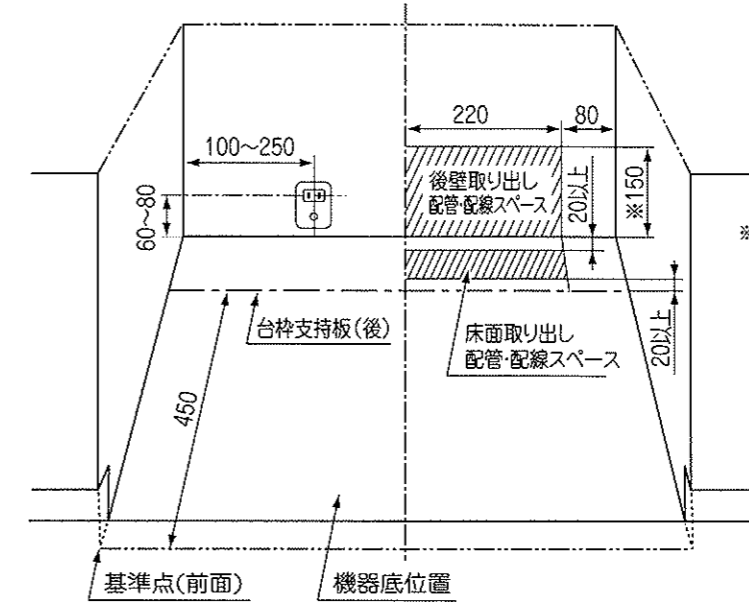
1. 施工業者の方へ

- ガス配管・電源コンセントの取り出し位置を確認してください。**【図9】**
- ガス栓は、下記の接続方法に従って取り付けてください。
- 工事終了後必ず施工者ラベルに所定の事項を記入し、ガス配管に貼り付けてください。

【図9】

ガス配管・電源コンセント取り出し位置図

[単位:mm]



注意



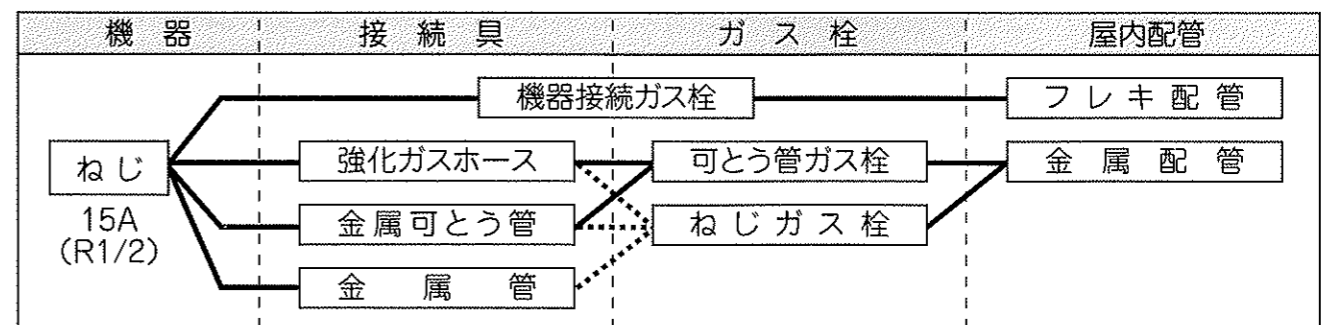
確認

- ガス配管接続工事については有資格者による工事がが必要です。
- 接続完了後は必ず漏えい検査をしてください。

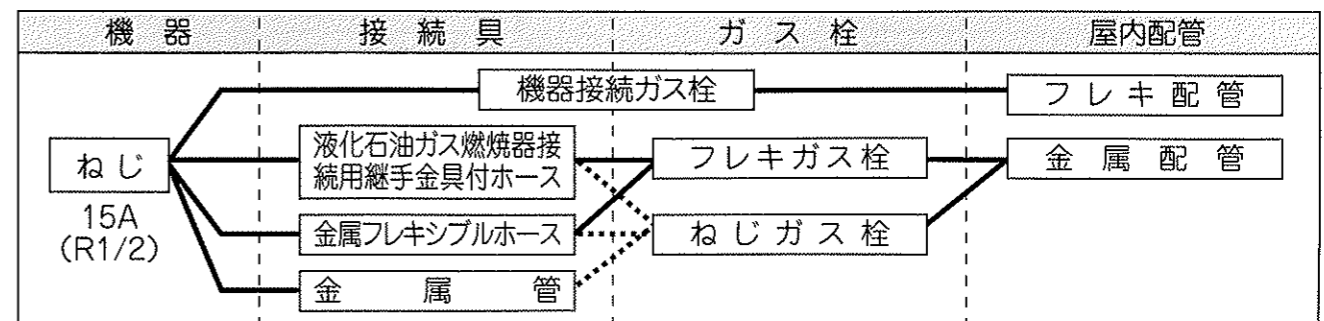
2. ガス配管接続工事方法

- 機器の接続方法

都市ガス



LPガス



5. ガス配管・電気工事

3. フレキ配管による標準配管施工例

- ガス配管は機器の配管・配線スペース内に収まるよう工事をしてください。
- 配管・配線スペースの有効高さ寸法は、62mmです。
- ガス配管が機器本体部(下面)の仕切板や機器本体部(上面)に接触しないように工事をしてください。

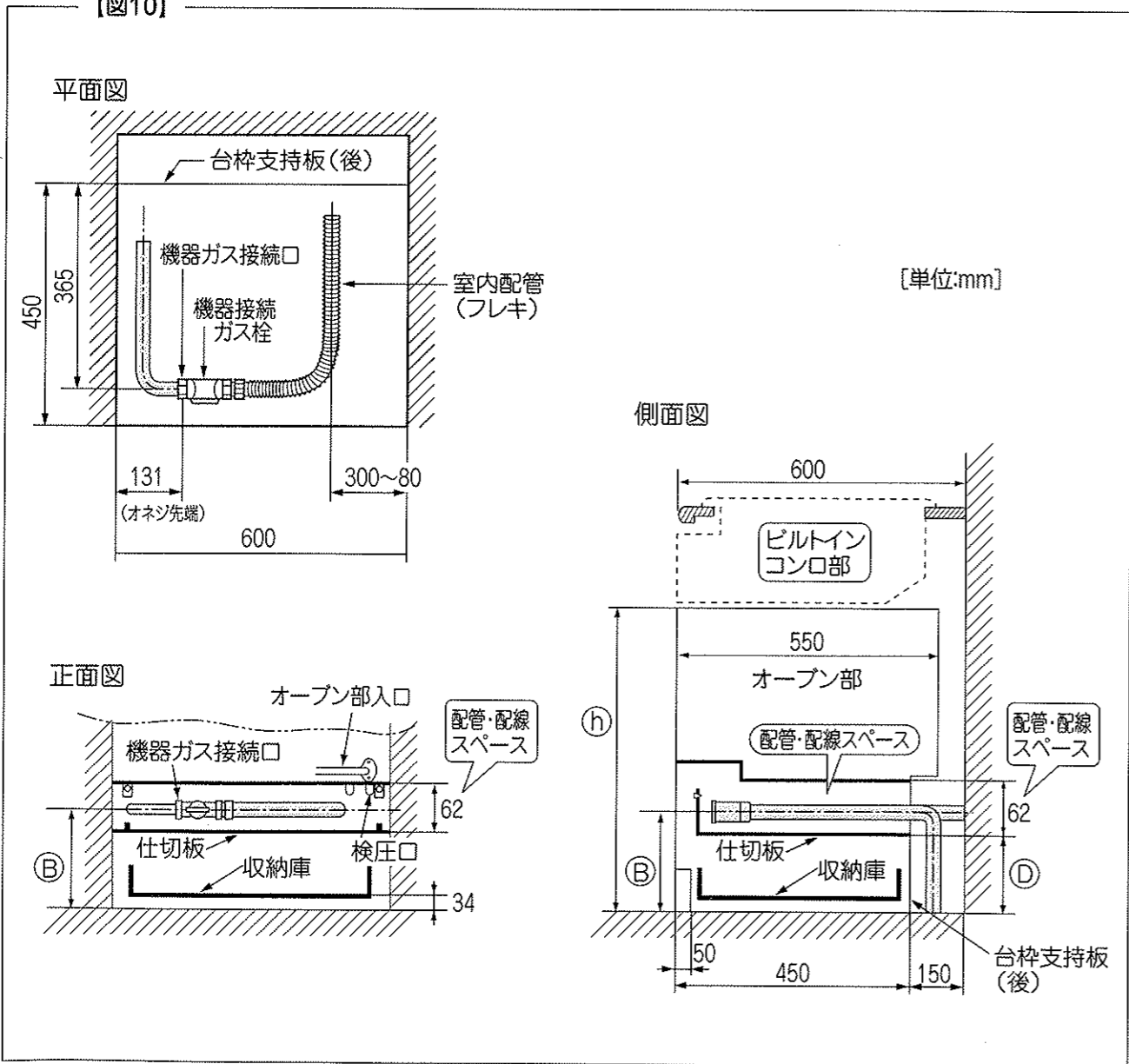
※ ③および④寸法は①寸法(機器高さ)により異なります。右表を参考にして工事をしてください。【図10】

[単位: mm]

機器高さ ①	機器ガス 接続口 ③	配管・配線 スペース下限 ④	配管・配線 スペース上限 ④+62
640	203	168	230
630	193	158	220
620	183	148	210
610	173	138	200
600	163	128	190
590	153	118	180
580	143	108	170

※別売部品のオープンベースを使用する場合には、各値に50mmを加算してください。

【図10】



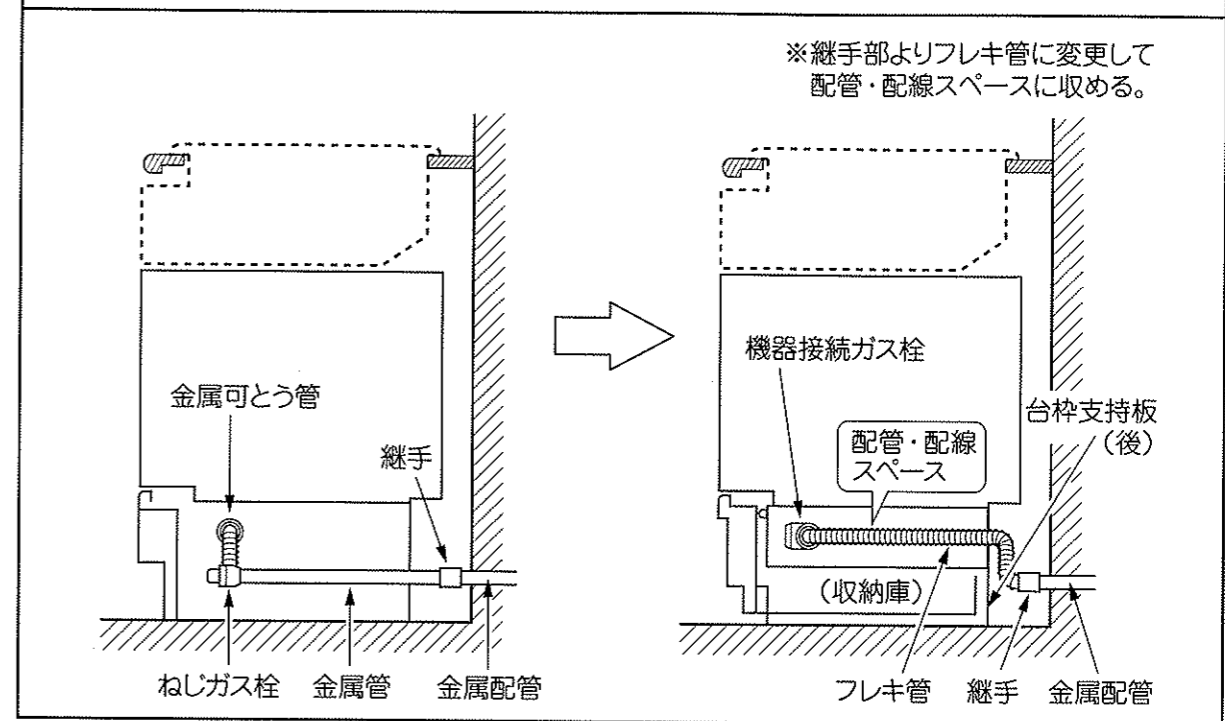
5. ガス配管・電気工事

4. 買替え時の配管施工例

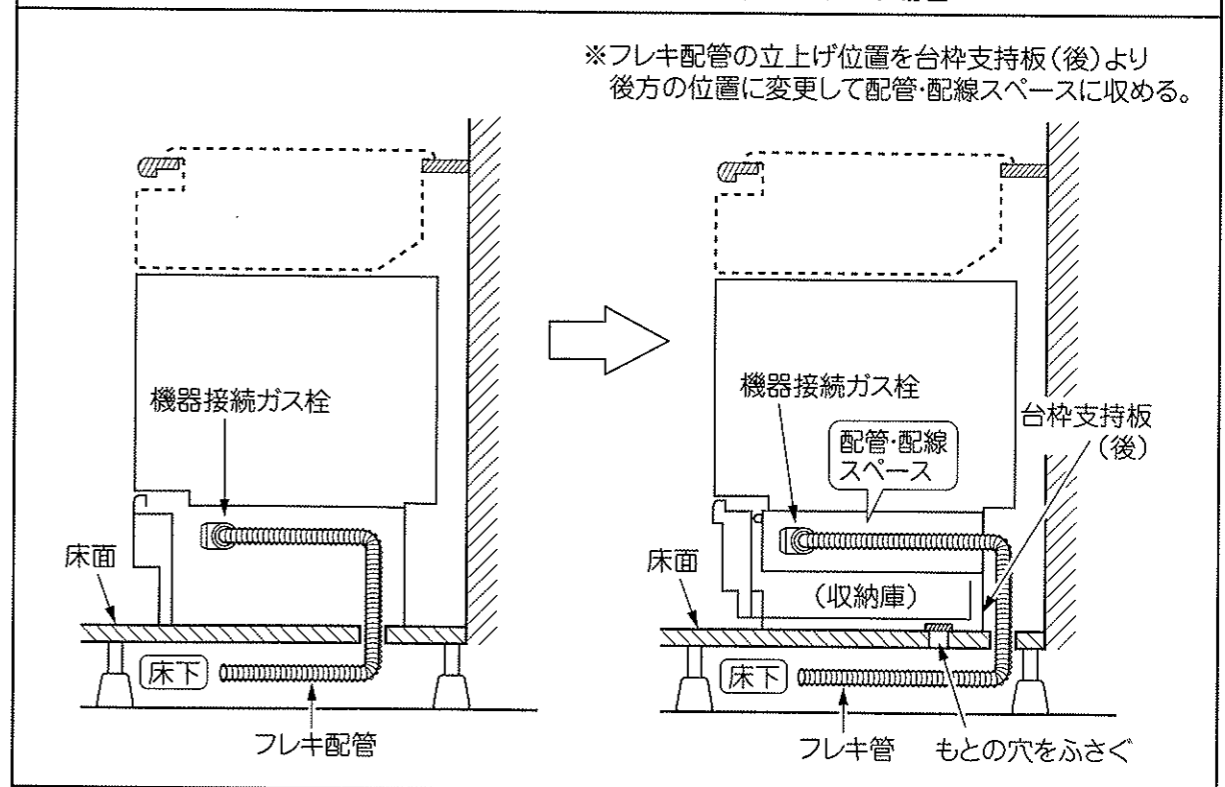
- 前項の【3.フレキ配管による標準配管施工例】を参考にして施工してください。
ガス配管が機器の配管・配線スペース内に収まらない場合には、配管・配線スペース内に収まるようガス配管の変更工事を行ってください。【図11】
- 電源コンセントも機器後方【台枠支持板(後)】から取り出してください。

【図11】

例1 集合住宅で金属配管の場合



例2 戸建住宅でフレキ配管が機器下の床面から立上っている場合



5. ガス配管・電気工事

■ 電気工事

1. 電源コードの接続

- 電源プラグは専用コンセントに差し込んでお使いください。
- 交流100V電源を必要とするガスビルトインコンロ以外の機器とは、共用しないでください。【図12】

電 源	交流100V・50-60Hz共用
消費電力	1170W

- 電源コードは収納庫上部の仕切板の上を後方へ引き回し、電源コンセントに差し込んでください。
- 特に電子レンジとしてお使いの場合は、同一ブレーカー回路でトースターや電気炊飯器などの電熱機器を同時に使わないでください。
- テレビ、ラジオの雑音や映像の乱れを防ぐため、テレビ、ラジオなどを4m以上離してください。また、できるだけ別のブレーカー回路でお使いください。
- 電源コンセントはアース端子付きのものを推奨します。

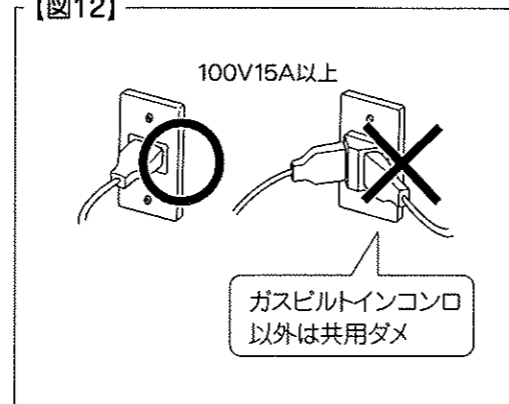
2. アースについて

- 万一の感電防止のためにアースを取り付けてお使いください。
- アースの取り付けは販売店または電気工事店にご相談ください。
- 次のような場合は必ずD種接地工事(第3種接地工事)【接地抵抗100オーム以下】をするよう法律で義務づけられています。
 - ※ 湿気が多い場所
 - うどん屋さん、そば屋さんなどのように水蒸気の充満した場所。
 - 土間、コンクリート床の場所。
 - 酒、しょうゆなどの醸造、または貯蔵する場所。
 - ※ 水気のある場所
 - この場合は漏電遮断器の取り付けについても義務づけられています。
 - 魚屋さん、八百屋さんの作業場などの水を取り扱う場所、その付近の水滴が飛散する場所。
 - 常に水が漏出したり結露する場所。

【ご注意】

- アース線はガス管や水道管、電話専用のアース線には絶対に接続しないでください。

【図12】



注意

● 接続作業は必ず専門の係員におまかせください。

確認

6. 機器の設置

1. 機器の挿入

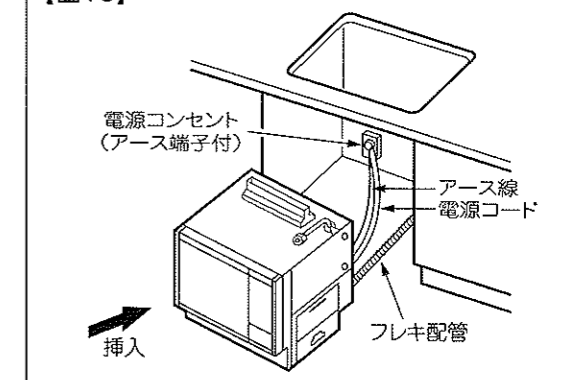
- 電源コード・アース線を機器後面より取り出し電源コンセントに接続して床面にはわしてください。
- 機器が挿入しやすいように、フレキ管を床面にはわしてください。
- 機器をカウンター内に挿入してください。【図13】

注意

● 機器は水平でしっかりした床面に設置してください。機器を設置するときは床面等にキズをつけないよう注意してください。

確認

【図13】



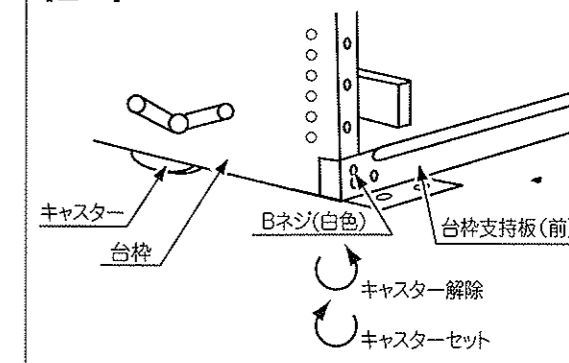
2. 機器の据え付け

- キャビネットのとびら前面と機器のサイドモール前面とのツラを合わせてください。
- Bネジ(左右)各1本(白色・前面矢印部)を左方向へ回転してキャスターを台枠内に収納してください。約5mmほど機器が下がります。【図14】

【ご注意】

- 機器を引き出す場合は、Bネジ(左右)各1本を右方向へ回転すると再びキャスターが出てきます。

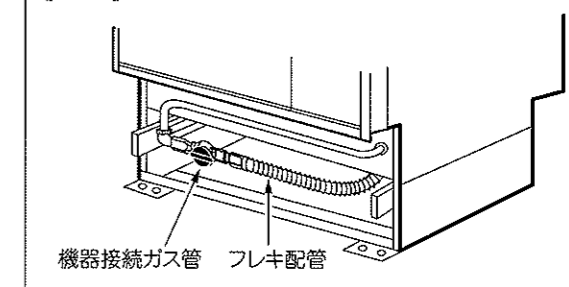
【図14】



3. ガス接続

- フレキ配管の端部を前面に引き出して適切な長さに切断してください。
- フレキ配管に機器接続ガス栓を取り付けて機器ガス接続口に接続してください。【図15】

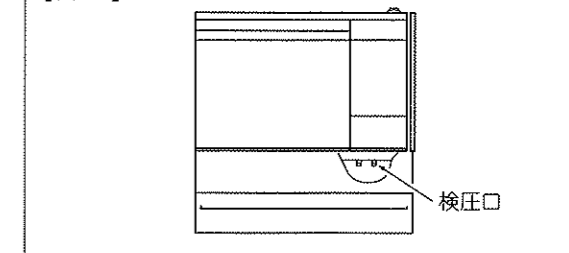
【図15】



4. ビルトインコンロとの接続

- 機器がカウンター内に設置できたら、ビルトインコンロとの接続を行ってください。詳細についてはビルトインコンロ側の工事説明書を参照してください。
- 台所のガス栓を使ってガス漏れを確認してください。検圧口はオープン入口部の近くにもあります。(機器前面右側下部) 【図16】

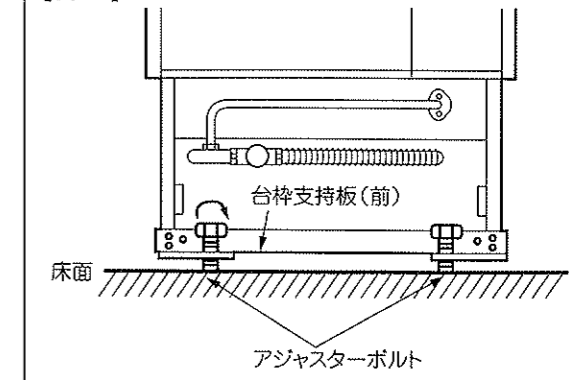
【図16】



5. 機器の移動防止及び高さの微調節

- ビルトインコンロと接続した後、機器の移動防止及び高さの微調節を行ってください。【図17】
- 付属品のアジャスターボルト2本を台枠支持板(前)に取り付け、締め込むことにより調節できます。

【図17】



注意

● ビルトインコンロとのスキ間は、5mm程度とし、ビルトインコンロが浮き上がらないよう注意してください。

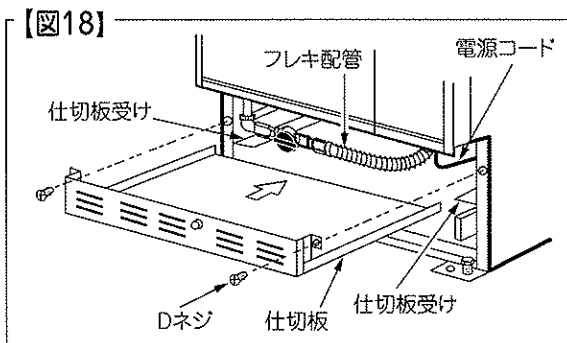
● 機器の位置ズレ防止のためにアジャスターボルトは必ず締め付けてください。

確認

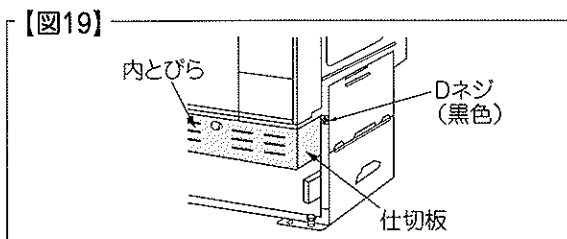
6. 機器の設置

6. 仕切板を取り付ける

- フレキ配管と電源コードが仕切板の上部に収まるように配置した状態で、仕切板を機器内側左右の仕切板受けにのせて奥まで押し込む。【図18】

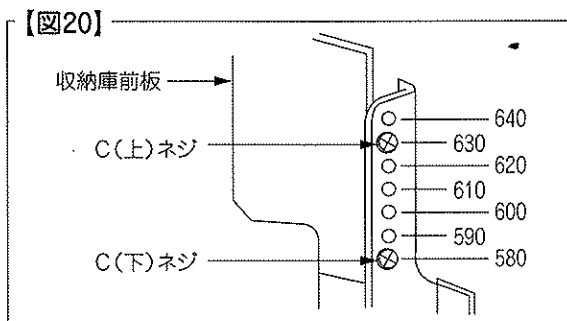


- 「4.機器の準備」4.仕切板を取り外すで取り外したDネジ(黒色)左右各1本で仕切板を機器に取り付ける。【図19】



7. 収納庫前板の高さ調節

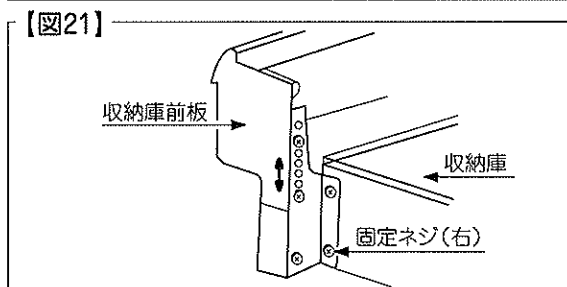
- 収納庫前板は、機器高さ(h)=630mmにセットしています。
- ワークトップ高さによって、機器高さ(h)を変更した場合は、Cネジ(左右各2本、黒色)を取り外し、収納庫前板を機器高さに応じた位置に高さ調節を必ず行ってください。【図20】



- 機器高さ(h)が580mm・590mmの場合、C(下)ネジの左右各1本は不要です。

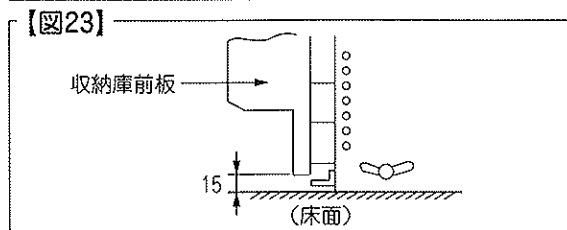
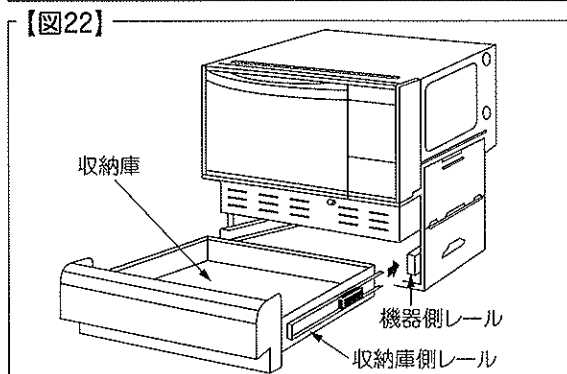
8. 収納庫前板の取り付け

- 収納庫前板を収納庫へはめ込み、付属の固定ネジ(左右各2本)で取り付けてください。【図21】



9. 収納庫を機器に取り付ける

- 収納庫側のレールの先端に機器側のレールを差し込んで奥まで入れてください。【図22】
- 収納庫を閉じたとき、床面とのすきまが約15mmになっているか確認してください。【図23】
- 収納庫がスムーズに開閉でき、異音や異常がないことを確認してください。



注意



確認

- 収納庫の開閉がなめらかであるか確認してください。
- 収納庫が電源コード・アース線またはガス配管に接触していないか確認してください。

◎設置工事が終わりましたら **設置工事後の点検確認** のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。